PRESS RELEASE

KOGEI 東京工芸大学 TOKYO POLYTECHNIC UNIVERSITY

2023.04.21

サムエル・コッキングと創立100周年を迎えた東京工芸大学
―in「江の島国際芸術祭2023」―

東京工芸大学(学長：吉野弘章、所在地：東京都中野区、以下本学)は、2023年5月31日（水）まで、「江の島国際芸術祭2023」で、創立100周年を記念した展示を行っています。創立100周年を迎えた本学と関わりのある、サムエル・コッキングとの関係をパネル展示するほか、光と色のテクノロジーを用いたアート作品を展示しています。

江の島国際芸術祭は、江の島が新緑で溢れる美しい季節に、江の島を大きく包み込む空の色をコンセプトにした、市民参加型の総合芸術祭です。江の島の文化遺産であり観光名所として知られる「江の島サムエル ・コッキング苑」を造成したサムエル・コッキングと、本学の創立の祖である六代杉浦六右衛門は、共に日本における写真と印刷の発達の歴史に深く関係しています。

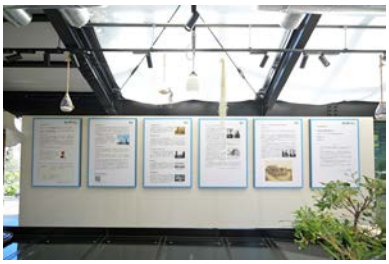
二人の出会いは1873（明治6）年。26歳だった六代杉浦六右衛門が、当時「陸蒸気」と呼ばれていた開通したばかりの鉄道に乗り、横浜にあったイギリス系貿易商館のコッキング商会を訪ねたときのことです。六代杉浦六右衛門は、コッキング商会の主人サムエル・コッキングから石版印刷、写真材料の商いを勧められ、日本橋に石版印刷や写真材料を取り扱う「小西本店（現・コニカミノルタ株式会社）」を1876（明治9）年に開業しました。その後明治から大正にかけて、写真と印刷という新しいメディアの産業を興し、社会の発展と文化の振興に身を投じた六代杉浦六右衛門が他界した後、その遺志を引き継いだ七代杉浦六右衛門によって本学は創立されました。

この度の「江の島国際芸術祭2023」では、本学創立100周年を記念して、サムエル・コッキング苑内の温室遺構を舞台に、本学とコッキングの関わりを解説するパネル展示と、コッキング氏の愛した江の島をテーマとした本学工学部教授内田孝幸による光と色のテクノロジーを用いたアート作品展示を行っています。

「江の島国際芸術祭2023」の詳細は以下のとおりです。

■江の島国際芸術祭2023
会期：2023年4月15日～5月31日
会場：江の島島内一帯・片瀬江ノ島海岸エリア各所
主催：湘南藤沢活性化コンソーシアム
【URL】https://www.enoshimart.com/
※東京工芸大学の展示はサムエル・コッキング苑 温室遺構内

江の島国際芸術祭 2023


東京工芸大学とサムエル・コッキングの関わりを解説するパネル展示

光と色のテクノロジーを用いたアート作品「ライティングドーム」

本リリースに関するお問い合わせ
学校法人東京工芸大学　総務・企画課　広報担当　TEL:03-5371-2741　MAIL:university.pr@office.t-kougei.ac.jp